

協働契約 事業実施結果報告書

1 提案概要

受託者及び代表者氏名	NPO法人あまがさき環境オープンカレッジ
事業名	あまがさき環境オープンカレッジ実行委員会事務局業務等委託

2 事業評価

(1) 協働側面の評価

実施手順

- ・下表について、相互に自己採点する。評価基準は次のとおりとする
A（よくできた）、B（まあまあできた）、C（あまりできなかった）、D（まったくできなかった）
- ・結果を共有し、差異がみられる項目を中心に、原因や改善策等について意見交換を行う
- ・協議内容は「3総合評価」に記載する
- ・結果を共有する際は、衝突を恐れず、互いを尊重しながら、率直な意見交換を行うこと。

項目	団体等	所管課
1 事業計画（準備）段階		
(1) 課題や目標について共有し、理解し合うことができたか	A	A
(2) 相手の立場や組織、ルール等を共有し、理解し合うことができたか	B	B
(3) それぞれの強み弱みを理解し、補い合いながら計画を立てられたか	B	B
2 事業実施段階		
(1) 率直な意見交換を行い、理解し合いながら、対等な立場で実施できたか	B	B
(2) 予定外のことについて、協力して対応することができたか	B	B
(3) 役割分担にとらわれて任せっきりにすることなく、主体的に関われたか	B	B
(4) 実施中に目標や進捗を共有し、改善しながら進めることができたか	B	A
その他（任意で設定する項目、項目数は不問）		
(1) 事業に興味深く取り組むことができたか。	B	A
(2) 事業への取り組みを通じて達成感を感じられたか。	B	A
(3) 事業を通じて新しい展開やつながりをつくることができたか。	A	A

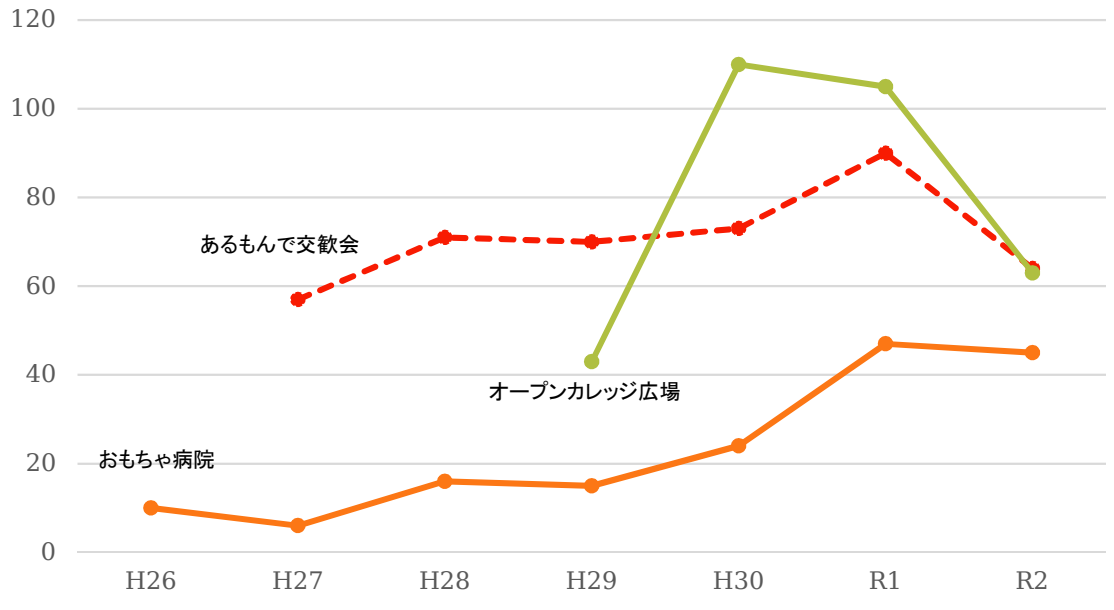
(2) 事業効果の評価

実施手順

- ・事業実施前を目途に、協議・合意の上、一つ以上設定する
- ・事業の効果が客観的に測れるよう、受益者の評価など、アウトカム指標を原則とする

項目	内容																																								
1 評価指標	事務局があまがさき環境オープンカレッジ実行委員会の支援をすることで、啓発がより進んだか。																																								
測定方法	あまがさき環境オープンカレッジ主催活動・連携活動参加者数の増減により測定																																								
結果	<p>1</p> <div data-bbox="336 584 1492 1176" style="text-align: center;"> <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse;"> <caption>参加者数の推移 (推定値)</caption> <thead> <tr> <th>期間</th> <th>計</th> <th>主催活動</th> <th>連携活動</th> <th>エコあまフェスタ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26</td> <td>3,000</td> <td>1,000</td> <td>500</td> <td>1,500</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>8,500</td> <td>5,000</td> <td>500</td> <td>2,800</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>3,500</td> <td>1,000</td> <td>200</td> <td>2,000</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>4,500</td> <td>1,000</td> <td>500</td> <td>2,800</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>10,500</td> <td>5,500</td> <td>3,000</td> <td>2,000</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>10,500</td> <td>4,500</td> <td>3,500</td> <td>2,500</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>1,500</td> <td>1,000</td> <td>500</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>※H28以降、市民まつり出店による参加者のカウント法について作品作りを体験した人に限定したため、参加者数が減少している。</p> <p>※H30以降は参加者 3,000 人の水辺まつりから連携活動申請があったため、連携活動の参加者数が増加している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止や人数制限を余儀なくされた活動が多くあったため、昨年度実績より全体参加者数は減少している。 ・オープンカレッジ広場、おもちゃ病院、あるもんで交歓会など、通年で広く一般に向けて行っている活動については、各回の平均参加者数はおおむね増加の傾向にあり、地域での環境活動の場、市民同士の交流の場として定着していることがわかる。 ・参加者からは「まだ使えるものを捨てずに済んで嬉しい」という意見なども寄せられており、市民が生活の中で感じていた思いを環境保全の意識と結びつけ、実現させる場としての役割も果たしている。 ・事務局業務を協働契約することで、実行委員会の安定的な活動実施が実現している。 	期間	計	主催活動	連携活動	エコあまフェスタ	H26	3,000	1,000	500	1,500	H27	8,500	5,000	500	2,800	H28	3,500	1,000	200	2,000	H29	4,500	1,000	500	2,800	H30	10,500	5,500	3,000	2,000	R1	10,500	4,500	3,500	2,500	R2	1,500	1,000	500	0
期間	計	主催活動	連携活動	エコあまフェスタ																																					
H26	3,000	1,000	500	1,500																																					
H27	8,500	5,000	500	2,800																																					
H28	3,500	1,000	200	2,000																																					
H29	4,500	1,000	500	2,800																																					
H30	10,500	5,500	3,000	2,000																																					
R1	10,500	4,500	3,500	2,500																																					
R2	1,500	1,000	500	0																																					

通年、一般向け活動の各回の平均参加者数



以上のことから、事務局があまがさき環境オープンカレッジ実行委員会の支援をすることで、多くの市民に環境についての意識を啓発することができ、市民への啓発がより進んだと言える。

2 評価指標 事務局があまがさき環境オープンカレッジ実行委員会の支援をすることで、市民に環境保全を啓発し、行動変容を促すことができたか。

測定方法 主催活動アンケート問6について、環境に関連する6項目に「◎」「○」と答えた人の割合の増減により測定。

結果 2 アンケートについて、令和2年8月1日から令和3年3月31日までを集計。総回答者数は412人。

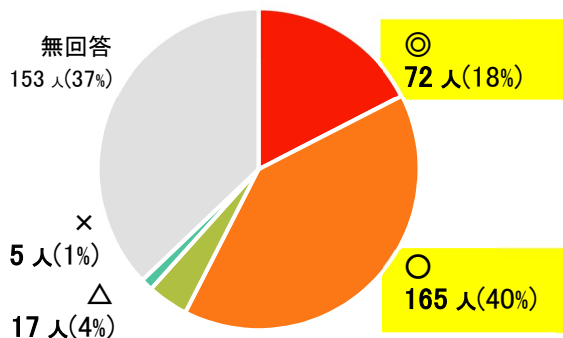
※令和2年4月1日～7月31日までは尼人第5500号・尼給第7680号副市長通達に基づきイベントは中止。

・アンケート問6「参加して感じた気持ちを◎、○、△、×で教えてください。」

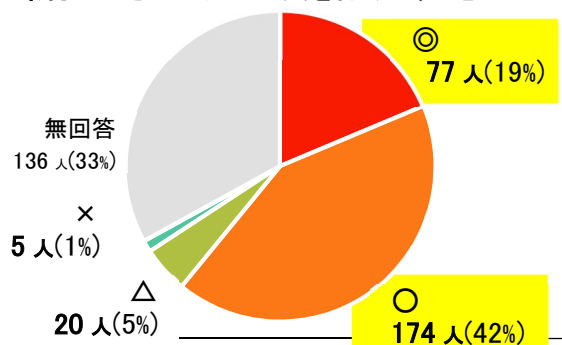
問6から、環境保全活動に関連する6項目をぬき出す。

環境保全活動に関連する6項目のうち4項目は、「◎」もしくは「○」と答えた参加者の数が半数を超えている。いずれも環境問題と自分の生活を結び付けて考え、行動することにつながる内容であるため、あまがさき環境オープンカレッジ主催活動に参加することを通して、市民の環境意識を啓発し、行動変容を促すことができたと思える。

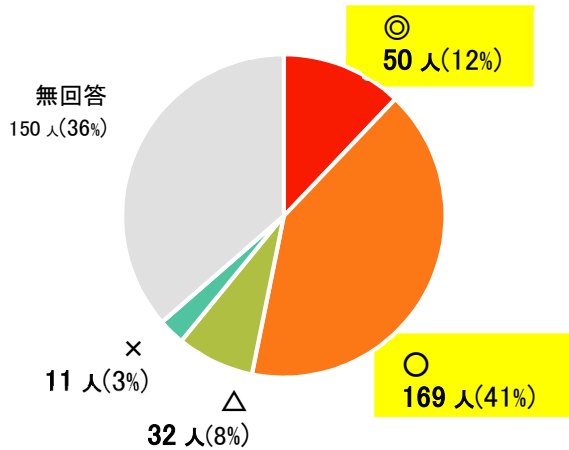
環境にやさしい暮らしのヒントが見つかった



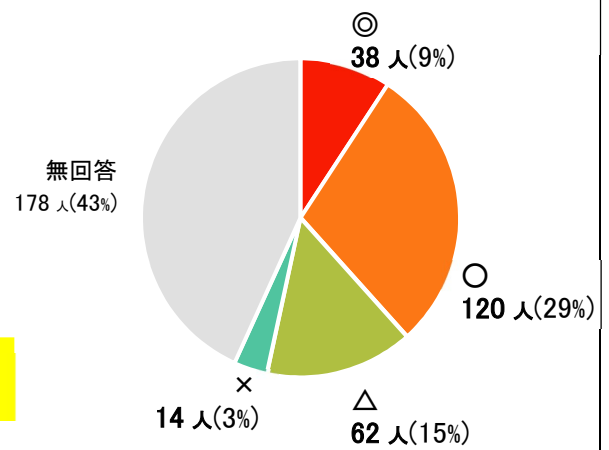
環境にやさしい暮らしに気を付けようと思った



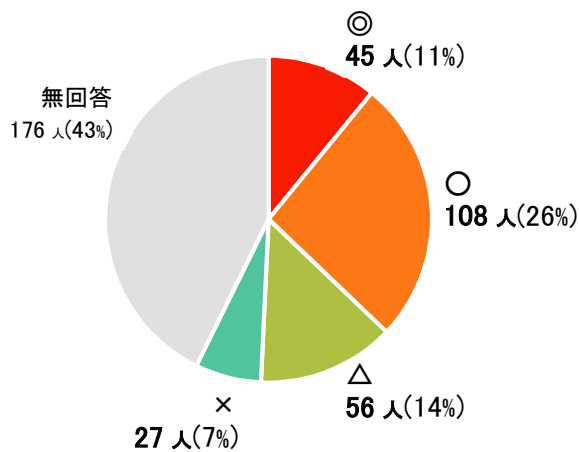
環境のために自分にできることは何かを考えた



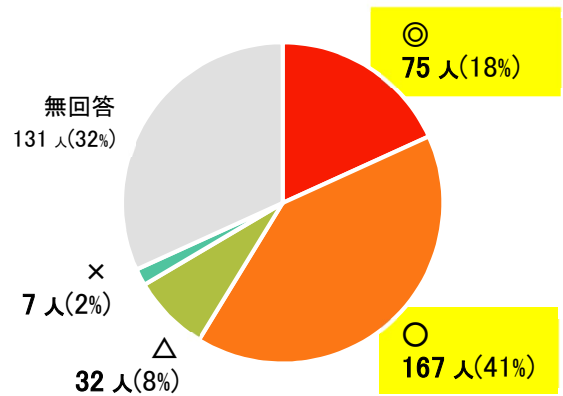
環境のことについてもっと調べてみようと思った



これから実際にやってみたいことがみつかった



今日知ったことを人に話してみたいと思った



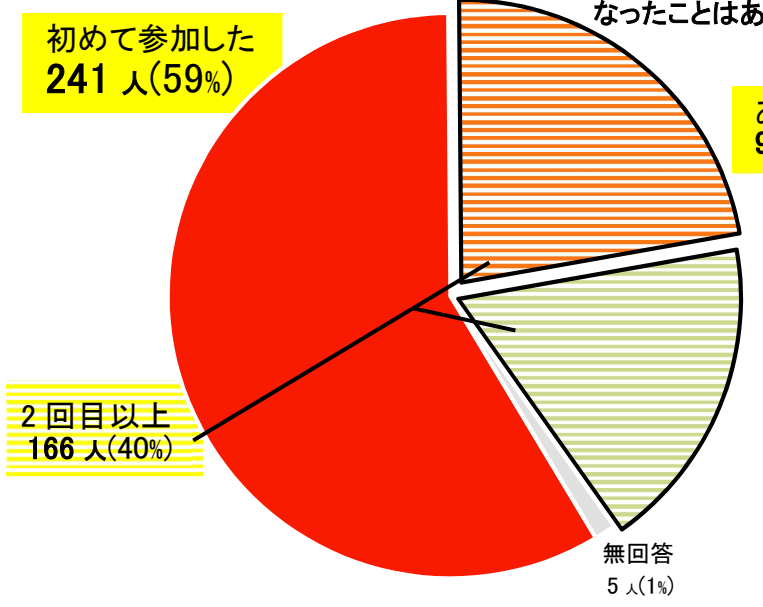
・アンケート問4「活動への参加は何回目ですか」

「初めて参加した」と答えた参加者は241人/412人である。これは、イベントに参加するという行動変容があったと捉えることができる。

・アンケート問5「2回以上参加した人は以前参加した活動の後に意識的に行うようになったことはありますか。」

「ある」と回答した人の人数は92人/166人と、半数以上の対象者が、あまがさき環境オープンカレッジ主催活動への参加が自分の生活の中での行動変容につながったと答えている。

問4
活動への参加は何回目ですか



問5
2回以上参加した人は以前参加した活動の後に意識的に行うようになったことはありますか。

ある
92人(55%)

ない
74人(45%)

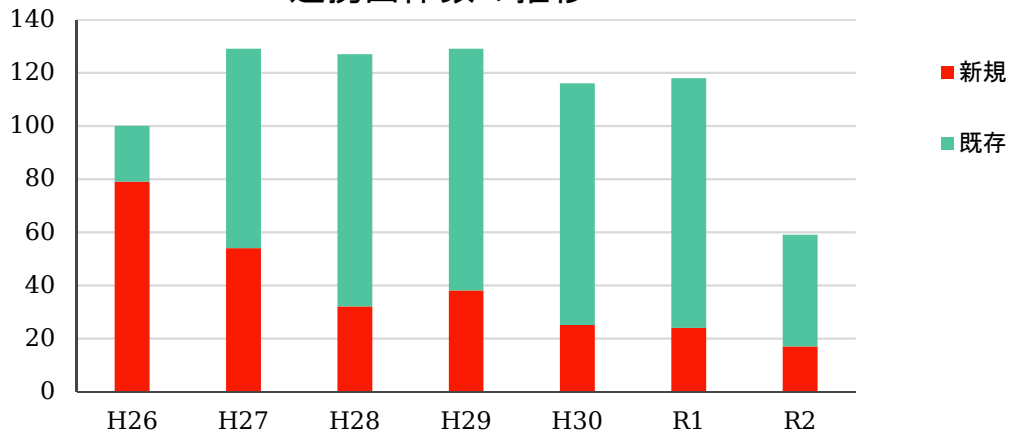
以上の結果から、AOCE事務局があまがさき環境オープンカレッジ実行委員会の支援をすることで、主催活動を通して市民に環境保全を啓発し、行動変容を促すことができたと言える。

3 評価指標 市内で活動する環境活動団体のネットワークを広げられたか。

測定方法 これまでの連携団体数と新規連携団体数により測定

結果 3

連携団体数の推移



- ・これまでの連携団体数は、累計で300団体で、今年度新しく連携した団体は13団体である。H30年度の新規連携団体数は25団体、R1年度の新規連携団体数は24団体であった。
- ・新型コロナウイルス感染症の流行という厳しい状況の中ではあるものの、活動の場が減った団体に新たな活動の場として主催活動を紹介したり、Web会議など新しい取組に挑戦し団体同士で積極的に情報交換を行ったりしたことで、昨年度より減ってはいるものの、前年度連携団体数の50%以上の団体と連携することができた。
- ・毎年安定して新規の連携団体と連携することができており、尼崎市の環境活動のプラットフォームとして市内で活動する環境活動団体のネットワークを広げることができている。

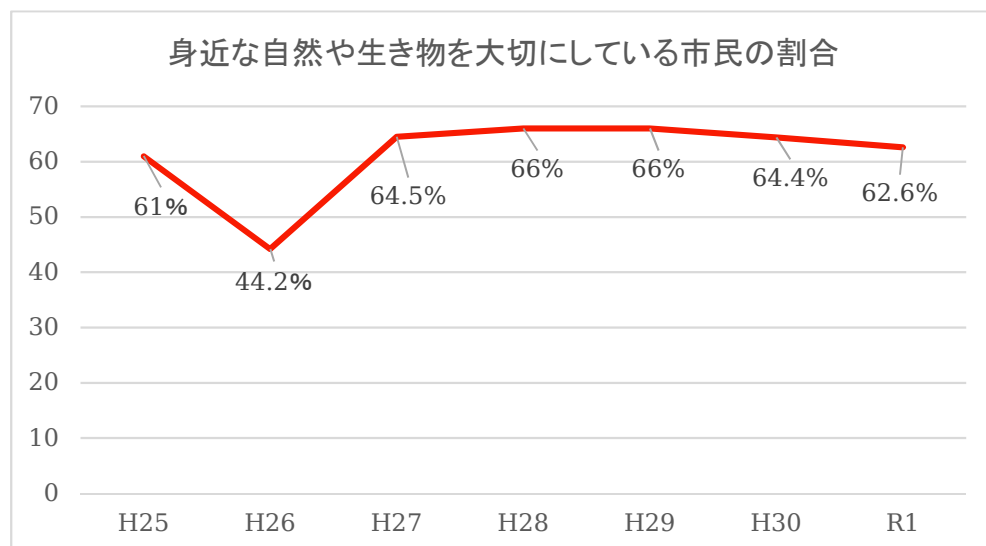
3 総合評価

協働側面の評価

- ・興味深く取り組む仲間が増え、新しい展開をつくることができた。(NPO AOCE)
- ・環境創造課からの情報提供が遅く、共有、補うという点ができなかつたと感じた。(NPO AOCE)
- ・事業アンケートの変更や感染症対策による事業内容の変更など、目標やその時々状況に合わせて改善しながら進めることができた。(環境創造課)
- ・それぞれの立場や強み、弱みについて、お互いの認識を一致させることで、補い合うことにつながる。

事業効果の評価

- ・主催活動への参加を通じて参加者に行動変容を促すことができた。
- ・主催活動「あるもんで交歓会」や「オープンカレッジ広場」について、活動場所周辺の地域住民への定着、環境意識の醸成を図ることができた。しかし、感染症の影響もあり、全体的に見て参加者数は減少している。今後はオンラインイベントなど、コロナ禍でも安心して参加できる実施方法に挑戦していく必要がある。あわせて、他の活動での宣伝などを積極的に行い、参加者を増やすことで啓発をさらに進めていきたい。
- ・市民アンケートの「身近な自然や生き物を大切にしている市民の割合」については、平成25年度からほぼ横ばいの状態である。自然や生き物を大切にすることについて、より多くの市民に向けて発信する方法を考える必要がある。



総評

- ・市と団体それぞれの強みを生かし事業を行うことで、市民、企業、学校、行政など様々な団体との連携が進んだ。
- ・市民目線から魅力的な活動を計画、実施することで、多くの新規参加者を獲得することができ、これまでより多くの市民に環境保全について広く啓発することができた。
- ・事務局業務を協働委託という形で実施することで、相互評価などをきっかけに互いの意思疎通ができ、事業の改善につながった。